

連体節における状態のタの統語的分析と否定辞の統語的位置

田川 拓海[†] (筑波大学人文社会科学研究科 IFERI 研究員
/筑波学院大学非常勤講師)

key-words: 連体節, TP, AspP, 否定辞の位置

0. はじめに

(1) 本発表の目的

- a. 連体節にのみ現れる、状態（形容詞的用法）のタは、意味的に等価に見えるテイルより統語的に小さな連体節の構造を形成することを示す。
- b. このタと否定の共起関係から、否定辞が動詞に直接付加することができるという仮説が支持されなくなることを指摘する。

1. Introduction: 形容詞的用法のタ

◆連体節でのみ、いわゆる結果相のテイルと（ほぼ）交換可能な「形容詞的用法」と言われるタがある。

→「この～タは、…テンスもアスペクトも表していない（寺村(1984: 197)）」

- (2) a. 濡れたタオル⇨濡れているタオル
b. タオルが濡れた⇨タオルが濡れている
- (3) a. 青い目をした太郎⇨青い目をしている太郎
d. 太郎は青い目を している/*した²

◆寺村(1984)では、このタを「テイルの縮約」として捉えている記述もある。

→単なる縮約ではなく、タとテイルでは形成する連体節の構造自体が異なる、ということを示す³。

[†] E-mail: takumidlit@gmail.com

¹ 寺村(1984)では、テイル形とタ形では意味が異なってきたり、置き換えが不可能である例もあることも同時に指摘されている（寺村(1984: 197-198)、金水(1994)も参照されたい。）

² 太郎が意図的に目を青く変化させた、というような解釈であれば可能である。

³ 本発表では、どのような動詞（あるいは動詞句）が形容詞的用法のタを許容するのか、どのよ

2. 統語的分析

◆先行研究

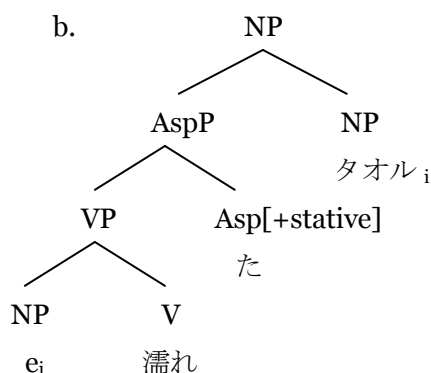
- ・金水(1994)：形容詞的用法のタは語彙部門で付加する。
- ・Abe(1993), 阿部(1994)：形容詞的用法のタは非時制的 IP を形成し、タはその head。
- ・Ogihara(2004)：形容詞的用法のタは時制的 TP(+M(od)P)を形成し、タはその head。

2.1. TP/IP の無い小さな連体節分析

◆連体節内におけるアスペクトの「た」を機能範疇 Asp(ect) (Embick(2003, 2004)) に位置すると仮定し⁴、TP/IP のような範疇は無いと考える。

- ・テイルのテは Asp の要素 (Kusumoto(2002), 内丸(2006)など)
- ・連体節の構造は NP への付加構造⁵

(4) a. 濡れたタオル



◆状態のタの連体節はあまり豊かな構造を投射（形成）しないように見える。

(5) a. 昨日から/一日中 濡れている/*濡れた タオル

b. 今も/まだ/ずっと 濡れている/*濡れた タオル

(5a, b): タ形の方は、期間/期限を表すような表現が共起しない。

→これらの副詞が付加する機能範疇 (TP/IP、あるいは文法的アスペクトを表す AspP) の欠如として考える。

うな環境で置き換えが不可能になったり意味が変化したりするのか、といった問題には立ち入らない (詳しくは金水(1994)を参照されたい)。

⁴ 状態的解釈を形成する Asp の詳細については Embick(2003, 2004)を参照されたい。

⁵ 連体節内に存在する主名詞と同一指示を持つ空範疇の有無や種類については、ここでは踏み込まない (cf. Ogihara(2004))。

- ・(5)の事実は形容詞的用法のタが状態的(stative)であるということからは説明できない。
→(6)に示すように、典型的な状態述語も問題の副詞と共起可能。

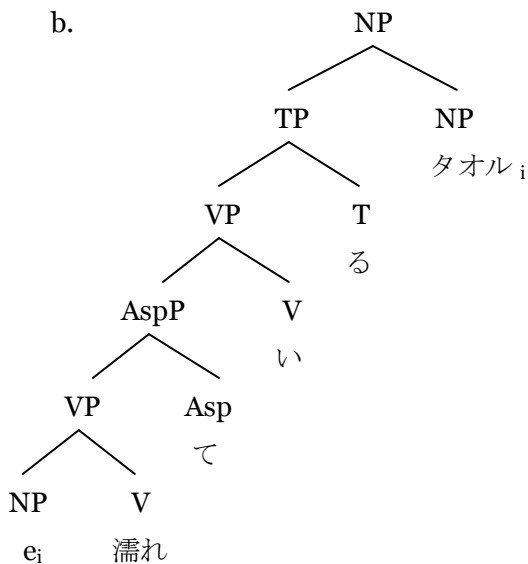
(6) 昨日から/まだ 具合が悪い太郎

- ・さらに、金水(1994)、Abe(1993)、Ogihara(2004)などで形容詞的用法のタ節に動作主外項が生起できないことが指摘され分析が行われているが、それ以外の外項 ((7)では Experiencer) も形容詞的用法のタ節では生起できないようである。
→ θ -role の問題だけでなく、統語的に外項が現れる位置が無い⁶。

- (7) a. その女性がプログラミングの能力に *優れた/優れている (こと)
 b. プログラミングの能力に 優れた/優れている 女性
 c. その女性が *優れた/優れている プログラミングの能力
 d. 優れた/優れている プログラミングの能力
 (cf. その女性の優れたプログラミングの能力)

- ◆一方、テイルの場合は通常の大サイズの連体節を形成していると考える。
→この構造の大サイズの違いがテイル連体節と形容詞的用法のタ節の違い。

(8) a. 濡れているタオル



⁶ Ogihara(2004)も Kratzer(1996)で提案された外項を認可する機能範疇 Voice を採用し、形容詞的用法のタ節に Voice が投射しないという統語的な分析を行っている。

3. 否定辞の統語的位置

3.1. 先行研究のいくつかの立場

- ◆日本語における否定辞「ない」は統語的にどの位置に現れているのか、そしてどの位置には現れないのか⁷という問題がある。

(9) 否定辞の統語的位置に関する仮説

a. 述語直接付加仮説⁸

「ない」は動詞、形容詞などの述語に直接付加している (Kuno(1980), 久野(1983), Takubo(1985))。

b. XP 選択仮説 (XP は VP, vP, IP など)

「ない」は動詞句、あるいはそれより大きな句的構成素を補部(complement)としてとる位置にある (Hasegawa(1993), Kato(1994, 2000), Aoyagi and Ishii(1994), Nishioka(2000), Han, Storoshenko and Sakurai(2004)など)。

※(9b)はさらに「ない」の姉妹位置にどの大きさの構成素を選択するかでいくつかの立場がある。通常は線形語順を考えて(食べ(V)-なかつ(Neg)-た(T))動詞句(vP)と仮定することが多いが、その他の立場もある。

→IP : Kato(1994, 2000)

VP (内項までの動詞句) : Han, Storoshenko and Sakurai(2004)

- ・片岡(2006)は(9a)の立場に対して、Takubo(1985)の議論および独自の議論を踏まえて、さらにそれを発展させた次の仮説を提示している。

(10) -nai 複数位置仮説

-nai は LF において V (または A) の投射を姉妹要素に取る位置にある。

(片岡(2006): 56)

- ◆構造を簡単に示す⁹ ((11b)では複数の位置を一度に表示してある)。

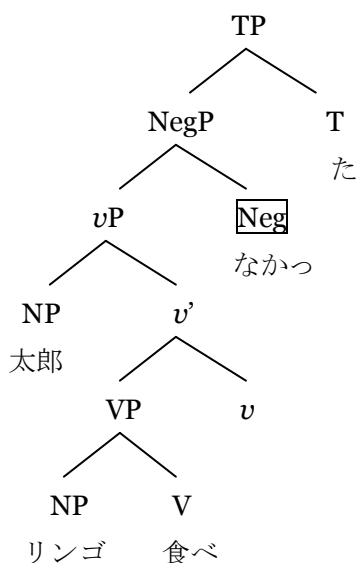
⁷ 片岡(2006)第1部第2章、特に2.4付記1の議論などを参照されたい。

⁸ Kuno(1980), 久野(1983)の「「ない」は(基本的に)その直前の述語のみを焦点(focus)とする」という一般化から導き出されるもので、久野自身が構造に関してのそのような仮説を提案しているわけではない。

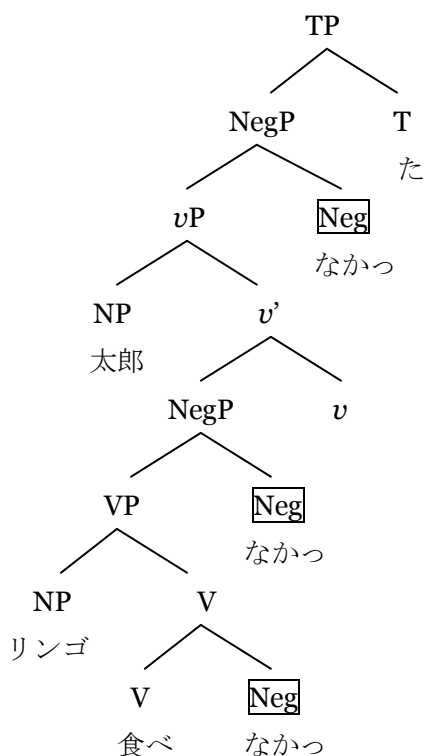
⁹ (11b)ではVのレベルにある場合のみ付加詞(adjunct)になっているが、それより上の位置に現れた場合でもVP付加詞やvP付加詞として現れていると考える選択肢もある。一方、(11a)の方ではNegを機能範疇の一つとして仮定するので付加詞と考えることはまず無い。

(11) 太郎はリンゴを食べなかった。

a. vP 選択仮説



b. 複数位置仮説



◆形容詞的用法のタに関する事実からこの問題に対して新しい経験的な議論を提示したい。

3.2. 形容詞的用法のタと否定辞

◆タの形容詞的解釈は連体節内でも否定辞の共起によって阻止(block)される。

- (12) a. 青い目をしていない太郎
 b. 青い目をしなかった太郎 (≠(12a))
 c. 乾いていないタオル
 d. 乾かなかったタオル

(12b): 「青い目をする」という行為を行わなかった、という解釈でのみ可能であり、(12a)と同じ解釈は不可能になる。

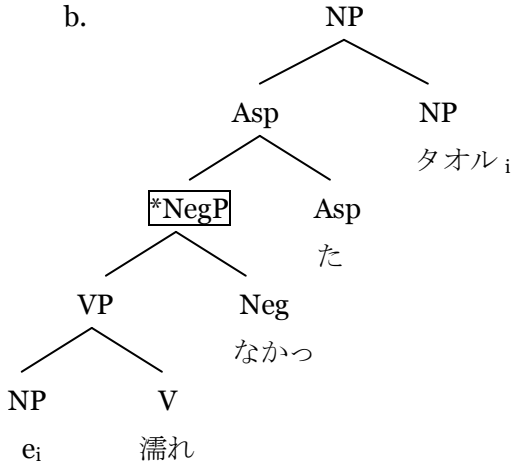
→例えば、タが連体節内では純粋なアスペクトを担う語彙として存在しうる、というように考えるだけでは、この否定との共起制限は説明できない(「ていない」もアスペクト形式と否定の共起である)。

→ではなぜ、形容詞的用法のタの場合にのみ否定辞と共起できないのか。

◆仮定：

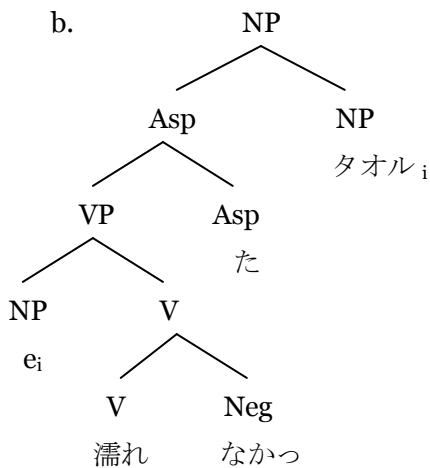
1. XP 選択説を取る
2. NegP は常に AspP より上位の構造を選択する (=VP と AspP の間に割り込めない)
→形容詞的用法のタ節は、否定辞を含むような大きな構造を形成しない。

(13) a. *濡れなかったタオル (=濡れていないタオル)



- ・一方で、-nai 複数位置仮説を取り否定辞の動詞への直接付加を許すと、「濡れなかったタオル (形容詞的解釈)」を適格な構造として派生してしまう。

(14) a. *濡れなかったタオル (=濡れていないタオル)



◆2 節で示した統語的分析と XP 選択説を取ることによって、形容詞的用法のタが否定辞と共起しないという事実が捉えられる。

- タが T/I の位置にあると仮定したり、否定辞が直接 V に付加していると考えerためには、別の分析の方法を考えなければならない。

※「ないでいる」をどのように考えるか。

→一見、否定辞が Asp の内側に生起しているように見える。

(15) 進行(progressive)

- a. 太郎が走らないでいる。
- b. *岩が動かないでいる。

(16) 結果(resultative)

- a. 太郎が倒れないでいる。
- b. *窓が割れないでいる。

- ・主語が無生物の場合に許容度が落ちることから、この場合の「いる」は本動詞（存在動詞）なのではないかと考えられる（cf. 金水(2000)）。
→アスペクト辞のテイルとは異なる構造を持つ。

4. おわりに: 課題など

- ◆形容詞的用法のタ節内でも内項のガ格、が/の交替が可能。

(17) 端っこ が/の 濡れたタオル

- ・ガ格は常に T によって認可される（竹沢(1998)など）、が/の交替は T-C によって認可される（Hiraiwa(2005)）とすると本発表での分析と整合しない。
→タを Asp に置いたまま、T の存在を仮定するという分析も考えられるが、T があっても素性が[-tense]である場合は主格の認可は不可能であり、問題は残る。

- ◆理論的含意：日本語にも述語+ α ぐらいの非常に小さな構造を持った連体修飾が存在する（cf. Ogihara(2004)）。→ the open/closed door

REFERENCES

- Abe, Yasuaki(1993) “Dethematized subjects and property ascription in Japanese,” *the Proceedings of the 1992 Asian Conference on Language, Information and Computation*.
- 阿部泰明(1994)「連体修飾節の諸問題」田窪行則(編)『日本語の名詞修飾表現』pp.153-171 くらしお出版.
- Aoyagi, Hiroshi and Toru Ishii(1994) “On NPI licensing in Japanese.” *Japanese/Korean Linguistics* 4: 295-311.
- Embick, David(2003) “Locality, listedness, and morphological identity”, *Studia Linguistica*

- 57(3), pp.143-169.
- Embick, David(2004) "On the structure of resultative participles in English," *Linguistic Inquiry* 35. pp.355-392.
- Han, Chung-Hye, Dennis Ryan Storoshenko and Yasuko Sakurai(2004) "Scope of negation, and clause structure in Japanese." *Berkley Linguistic Society (BLS)* 30.
- Hasegawa, Nobuko(1993) "On non-argument quantifiers: Floating quantifiers and the narrow scope reading," *Japanese Syntax in Comparative Grammar*. Nobuko Hasegawa (ed.), pp.115-145. Kurosio Pubrishers.
- Hiraiwa, Ken(2005) *Dimensions of Symmetry in Syntax: Agreement and Clausal Architecture*. Ph.D. dissertation, MIT
- 片岡喜代子(2006) 『日本語否定文の構造：かき混ぜ文と否定呼応表現』くろしお出版
- Kato, Yasuhiko(1994) "Negative polarity and movement," *Formal Approach to Japanese Linguistics, MITWPL* 24: 101-120. MIT.
- Kato, Yasuhiko(2000) "Interpretive asymmetries of negation," *Negation and Polarity: Syntactic and Semantic Perspectives*. Laurence R. and Yasuhiko Kato (eds.), pp.62-87. Oxford University Press.
- 金水敏(1994) 「連体修飾の「～タ」について」田窪行則(編) 『日本語の名詞修飾表現』 pp.29-65 くろしお出版.
- 金水敏(2000) 「時の表現」金水敏、工藤真由美、沼田善子(著) 『日本語の文法 2 時・否定ととりたて』 pp.3-92 岩波書店
- Kuno, Susumu(1980) "The scope of the question and negation in some verb-final languages," *Chicago Linguistic Society (CLS)* 16: 155-169. University of Chicago.
- 久野暉(1983) 『新日本文法研究』大修館書店
- Kusumoto, Kiyomi(2002) "The semantics of *-teiru* in Japanese," *Japanese/Korean Linguistics*. 11 pp.367-380.
- Nishioka, Nobuaki(2000) "Japanese Negative Polarity Items *wh-MO* and *XP-sika* Phrases: Another Overt Movement Analysis in Terms of Feature-Checking," *Syntactic and Functional Explorations: In Honor of Susumu Kuno*. Ken'ichi Takami, Akio Kamio and John Whitman (ed.), pp.157-184
- Ogihara, Toshiyuki(2004) "Adjectival Relatives," *Linguistics and Philosophy* 27(5): 557-608.
- 竹沢幸一(1998) 「格の役割と構造」中右実(編) 『日英語比較選書 9 格と語順と統語構造』 pp.1-10, 研究社出版.
- Takubo, Yukinori(1985) "On the scope of negation and question in Japanese," *Papers in Japanese Linguistics* 10: 87-115.
- 内丸裕佳子(2006) 『形態と統語構造の相関—テ形節の統語構造を中心に—』筑波大学博士論文